

自由応募分科会 1 アジアにおける性的マイノリティの政治：家族・宗教・国家  
報告 1

田村慶子（北九州市立大学）

台湾とシンガポールにおける性的マイノリティの人権と市民社会  
Human Rights of Sexual Minorities and Civil Society in Taiwan and Singapore

2016年10月に台北で開かれたプライドパレード（性的マイノリティの存在を広く知ってもらい、かつその法的権利を求め、文化を称えるパレード）には近隣諸国からの参加者を含めて8万人が集い、アジア最大規模となった。このプライドパレードだけではなく、台湾では直轄都市すべてで同性カップルがパートナーとして登録することができ、さらに同性婚を合法化しようとする市民団体も活発な活動を繰り返している。2016年10月には立法院（国会）に同性婚を合法化する民法改正案が提案され、現在その議論が続いている。もし提案が通れば、台湾はアジアで最初に同性婚が合法化される国になる。

一方のシンガポールでは男性どうしの性行為は違法で、違反者には実刑が科され、同性婚どころかパートナーシップ制度の議論も未だほとんど行われていない。ただ、性的マイノリティの権利拡大を求める運動はインターネットのサイトを中心に近年盛んになり、2007年には国会で男性どうしの性行為を禁じる刑法の廃止をめぐって活発な議論が行われた。2016年6月に開催された性的マイノリティの集会には2万8000人以上の人が集まった。シンガポールでも徐々に性的マイノリティに寛容な政治・社会環境がうまれつつある。

本報告は、主に中国各地からの雑多な移民が創った台湾と、同じように主に中国南部、東南アジアと南アジアなどからの多様な移民の国であるシンガポールを取り上げ、性的マイノリティに関する法制度と市民社会の議論を比較、考察する。